

# 奥州市子どもの読書活動推進計画 (第4次)

令和6年3月  
奥州市

## 目次

### 第1章 はじめに

- 1 計画改定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 国・県の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4 計画の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 5 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### 第2章 子どもの読書活動の現状

- 1 家庭における読書活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 地域における読書活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 幼稚園・保育所・認定こども園における読書活動・・・・ 4
- 4 小学校・中学校・高等学校における読書活動・・・・ 5
- 5 市立図書館における読書活動・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 6 第3次計画における成果と課題・・・・・・・・・・・・・・ 9

### 第3章 奥州市の子どもの読書活動推進の基本方針

- 1 推進計画の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - (1) 子どもの読書環境の整備・充実・・・・・・・・・・・・ 11
  - (2) 家庭、地域、学校等を通じた社会全体における取り組みの推進・・・・ 11
  - (3) 子どもの読書活動の意義の普及・・・・・・・・・・・・ 11
  - (4) 発達段階に応じた読書活動支援・・・・・・・・・・・・ 12
- 3 目標水準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

### 第4章 子どもの読書活動推進のための取り組み

- 1 家庭における読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 地域における読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 3 幼稚園・保育所・認定こども園における読書活動の推進・・・・ 13
- 4 学校における読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 5 市立図書館における読書活動の推進・・・・・・・・・・・・ 14

### 第5章 資料編

- 1 胆江ゆめネットワーク所属団体・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 2 子どもの読書活動推進計画見直しに係るアンケート調査結果・・・・ 16

## 第1章 はじめに

### 1 計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。また、読書には、「楽しむために読む」「調べるために読む」「知的欲求を満たすために読む」など様々な側面があり、自ら学び考える力が育まれると同時に、これらの活動を通じて、国語力や言語力も育まれるなど、子どもの成長に欠くことのできない重要なはたらきがあります。

市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成21年3月に「奥州市子どもの読書活動推進計画（第1次）」、平成26年3月には「第2次奥州市子どもの読書活動推進計画」、平成31年3月には「第3次奥州市子どもの読書活動推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んできました。

これまでの取り組みの成果を検証するとともに、今後も奥州市の子どもたちが自主的に読書をする習慣を身に付けられるよう、基本的な目標や方策を示し、子どもの読書活動に関する施策を計画的に推進するため、「第4次奥州市子どもの読書活動推進計画」を策定します。

### 2 国・県の動向

国においては令和5年3月に「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、「不読率の低減」、「多様な子どもたちの読書機会の確保」、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」、「子どもの視点に立った読書活動の推進」を基本的方針とする子どもの読書活動推進の方策を示しました。

また、岩手県においても、家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進と、そのための条件整備と充実等を施策の柱とした「第5次岩手県子どもの読書活動推進計画」を令和6年3月に策定し、様々な取り組みを行うこととしています。

### 3 計画の期間

令和6年度から、おおむね5カ年

### 4 計画の対象

子ども（おおむね18歳以下の者）とします。

### 5 推進体制

家庭、地域、学校の子どもの読書活動の推進に関わる関係者で構成する「奥州市子どもの読書活動推進委員会」において、この計画を推進していきます。

## 第2章 子どもの読書活動の現状

### 1 家庭における読書活動

#### 【これまでの取組】

家庭においては、「奥州市家庭読書の日（ねえ読んで）」、「絵本と出会う親子ふれあい事業（ブックスタート）」、「親子ライブラリー えほんの森」等を通して、親子、家庭で楽しめる読書活動に取り組みました。

「家庭教育講演会支援事業」により、保護者に対する読書活動や情報メディアの使い方等の啓発に努めました。

#### ■「絵本と出会う親子ふれあい事業（ブックスタート）」実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
開催回数	45回	44回	45回	48回
参加組数	686組	654組	595組	546組

（「奥州市の保健」より）

※令和2年度～令和4年度は、感染症対策のためボランティアによる読み聞かせを中止し、絵本と小冊子（図書館の紹介とおすすめブックリスト）の配布のみ

#### ■「親子ライブラリー えほんの森」利用実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用人数	9,384人	5,490人	3,916人	4,401人

（「奥州の教育」より）

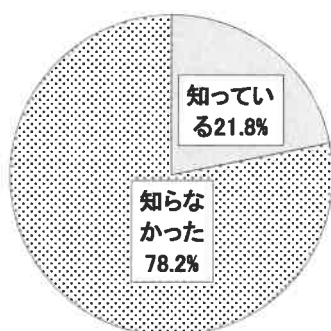
#### ■「家庭教育講演会支援事業」実施実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実施件数	4件	1件	0件	2件
参加人数	320人	26人	0人	185人

※講演内容が、読書活動や情報メディアの使い方等のもの

#### 【子どもの読書の現状】

#### ■「奥州市家庭読書の日（ねえ読んで）」を知っていますか（保護者アンケート）



□1.知っている □2.知らなかった □0.無回答

（令和5年度奥州市子どもの読書活動推進計画に係るアンケートより）

## 2 地域における読書活動

### 【これまでの取組】

地域においては、「市読書ボランティア等研修会」により、読書ボランティアや放課後児童クラブ等関係者が、活動に必要な知識・技能などの習得に努めました。

「教育振興運動」では活動テーマのひとつを「読書習慣の定着」とし、啓発活動や読み聞かせなどを実施しました。

「学校支援地域本部事業」では、小学校・中学校で、読み聞かせや学校図書館の環境整備等を行いました。

### ■市読書ボランティア研修会

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
参加者	54人	40人	70人	49人

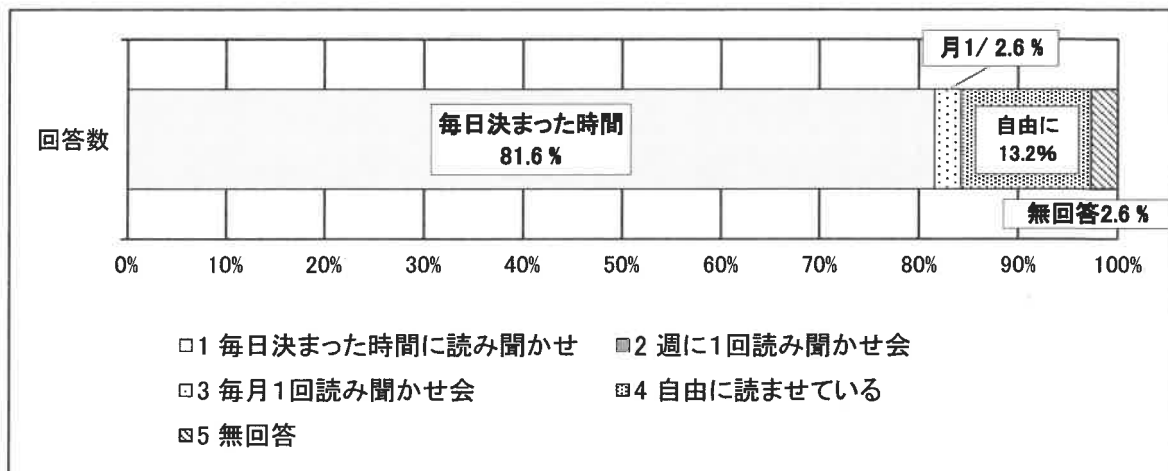
### 3 幼稚園・保育所・認定こども園における読書活動

#### 【これまでの取組】

幼稚園・保育所・認定こども園では、児童への読み聞かせや各家庭に本の貸し出しを行い、子どもが様々な本にふれあえるよう読書活動の充実に努めました。

移動図書館車による団体貸出しの活用を図りました。

#### ■読み聞かせの時間（施設アンケート）



#### ■幼稚園・保育所・認定こども園への団体貸出数

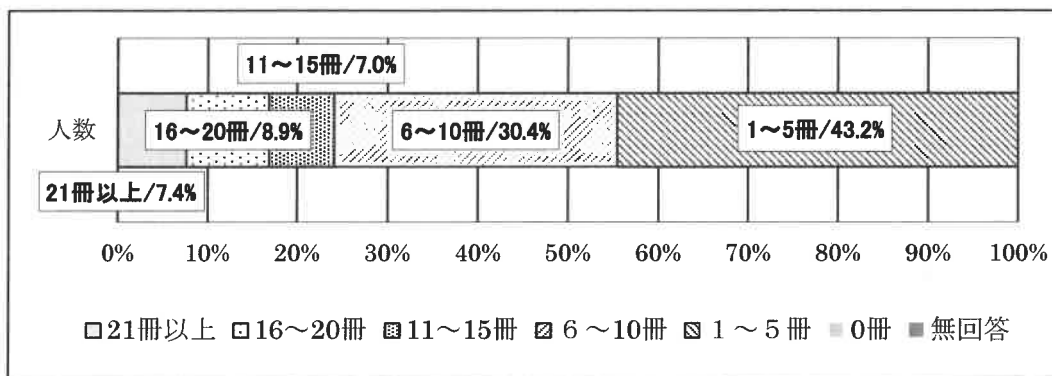
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸出冊数	10,607冊	10,556冊	8,629冊	11,347冊

#### 【子どもの読書の現状】

##### ■読書冊数（保護者アンケート）

◆お子さんは、1ヶ月の間に何冊くらい読みますか？

（読み聞かせする本の冊数も含んでください）



（令和5年度奥州市子どもの読書活動推進計画に係るアンケートより）

#### 4 小学校・中学校・高等学校における読書活動

##### 【これまでの取組】

市内全中学校において、読書ボランティアによる読み聞かせ、様々な本を紹介するブックトークに取り組みました。

中高生を対象とした読み聞かせ研修会を開催しました。

学校図書館司書と市立図書館司書が連携し、連絡会議の開催、「奥州市の中高生にオススメするブックリスト」の作成、「おすすめ本POPカード」事業に取り組みました

##### ■中学校での取組状況 ※延べ人数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
読み聞かせ参加生徒数	6,269人	2,782人	2,909人	2,636人
ブックトーク参加生徒数	1,239人	1,182人	1,465人	1,211人

##### ■中高生を対象とした読み聞かせ研修会実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
参加生徒数	37人	32人	24人	15人
施設での読み聞かせ	37人	18人	24人	15人

※令和2年度は新型コロナウイルスの影響で施設に人数制限があったため減少。令和4年度は新型コロナウイルスの影響で一部事業中止

##### ■おすすめ本POPカード事業の取組状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
参加人数（中学校）	31人	28人	20人	18人
参加人数（高校）	3人	7人	14人	6人

## 【子どもの読書の現状】

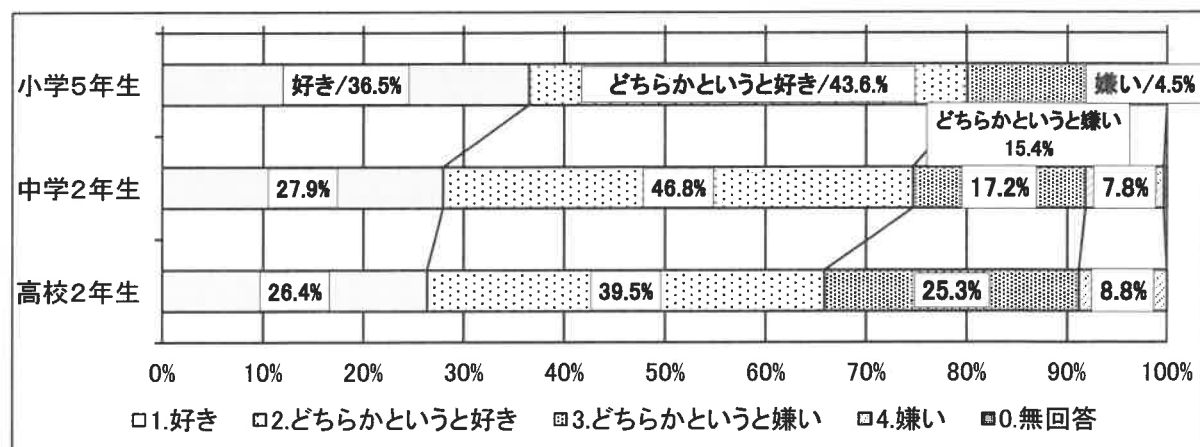
### ■読書冊数（児童生徒アンケート）

		本	うち電子書籍
小学5年生	総冊数	3,763	390
	平均冊数	14.1	1.5
中学2年生	総冊数	1,678	272
	平均冊数	5.4	0.9
高校2年生	総冊数	584	165
	平均冊数	2.0	0.6
計	総冊数	6,025	827
	平均冊数	6.9	1.0

本		21冊以上	16～20冊	11～15冊	6～10冊	1～5冊	0冊	計
小学5年生	人数	41	36	32	59	87	11	266
	割合	15.4%	13.5%	12.0%	22.2%	32.7%	4.1%	100.0%
中学2年生	人数	7	15	10	41	211	24	308
	割合	2.3%	4.9%	3.2%	13.3%	68.5%	7.8%	100.0%
高校2年生	人数	4	3	2	13	154	120	296
	割合	1.4%	1.0%	0.7%	4.4%	52.0%	40.5%	100.0%
計	人数	52	54	44	113	452	155	870
	割合	6.0%	6.2%	5.1%	13.0%	52.0%	17.8%	100.0%

（令和5年度奥州市子どもの読書活動推進計画に係るアンケートより）

### ■読書が好きか嫌いか（児童生徒アンケート）



（令和5年度奥州市子どもの読書活動推進計画に係るアンケートより）



### ■学校図書館図書標準の達成状況（奥州市）

学校図書館へ司書教諭や学校司書の配置状況、図書の整備状況、学校図書館の活用及び読書活動の状況等の調査

調査年	小中区分	達成している学校数	割合
平成 23 年度末	小学校（33 校）	17	51.5%
	中学校（12 校）	6	50.0%
平成 27 年度末	小学校（27 校）	20	74.1%
	中学校（12 校）	5	41.7%
令和元年度末	小学校（27 校）	18	66.7%
	中学校（9 校）	6	66.7%

（文部科学省「令和 2 年度学校図書館の現状に関する調査」より）

## 5 市立図書館における読書活動

### 【これまでの取組】

市立図書館及び衣川セミナーハウスでは、本への興味や関心を持つような乳幼児・児童向け図書の充実に努め、読み聞かせ会など親子がふれあう機会を提供しました。

#### ■図書館における児童書の状況（児童書には、紙芝居を含む。）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
蔵書冊数	149,597	148,996	143,126	140,561
新規購入冊数	3,024	2,826	2,622	2,554
貸出冊数	227,876	211,844	192,565	211,701

#### ■利用状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録者数	24,814	24,311	21,250	21,891
うち児童	2,378	2,208	2,003	1,778

（令和5年度「奥州の教育」より）

## 6 第3次計画における成果と課題

### (1) 指標の状況

第3次計画の推進に当たっては、取り組みの成果が分かるように3つの指標を設定して取り組んできました。これらの指標についての現状は、次のとおりです。

#### ■奥州市児童生徒の1カ月の平均読書冊数

	第1次実績 (平成25年度)	第2次実績 (平成30年度)	第3次実績 (令和4年度)	第3次目標 (令和5年度)
小学5年生	15.0冊	17.9冊	19.1冊	20.9冊
中学2年生	4.5冊	6.8冊	8.5冊	6.8冊
高校2年生	2.3冊	2.4冊	2.3冊	3.2冊

(「岩手県子どもの読書状況調査」集計結果をもとに奥州市で作成)

中学生の読書冊数は目標を達成できた一方、小学生・高校生は目標を下回りました。

#### ■市民一人あたりの図書館貸出冊数

	第1次実績 (平成24年度)	第2次実績 (平成29年度)	第3次実績 (令和4年度)	第3次目標 (令和5年度)
貸出冊数	5.25冊	5.2冊	4.5冊	5.3冊

(「図書館・公民館図書室等実態調査」より)

図書館の貸出冊数は、コロナ禍の影響もあり目標を下回りました。

#### ■ボランティア団体数

	第1次実績 (平成25年度)	第2次実績 (平成30年度)	第3次実績 (令和4年度)	第3次目標 (令和5年度)
団体数	22団体	19団体	13団体	22団体

ボランティア団体数は減少傾向にあり、目標を下回りました。

### (2) 成果

市で実施している中学生への本の読み聞かせ・ブックトークにより、第1次計画策定以降、中学生の読書冊数は増加傾向にあります。また、小学生は教育振興運動の取り組みや学校支援事業での読み聞かせなどが行われており、読書冊数が多く、アンケート結果からも関心が高いことが伺えます。

読書ボランティアの活動については、市主催研修会の開催や県主催研修会への参加支援によりボランティアの意欲、技術の向上が図られ、子どもの読書活動の推進につながっています。

### (3) 課題

小中学生の読書冊数は増加しているものの、高校生は伸びが見られず、スマートフォンの普及やそれを活用したSNS等コミュニケーションツールの多様化等が、読書環境にも大きな影響を与えている可能性があります。

また、読書ボランティアの高齢化に伴い活動を休止している団体があり、ボランティアの育成が課題となっています。

毎月4日の「奥州市家庭読書の日（ねえ読んで）」について、家庭での認知度が低いことから、更なる啓発が必要です。

## 第3章 奥州市の子どもの読書活動推進の基本方針

### 1 推進計画の基本的な考え方

急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育むうえで、読解力や創造力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠です。

また、読書を通じて、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。さらに、読むこと自体の楽しさ、それによる充実感、満足感を得ることが重要であり、子どもの頃のそうした体験は、将来にわたる学習意欲につながるとともに、将来、その体験を子どもたちと共有していきたいという動機となり、世代を超えた読書活動の推進の循環が形成されることが期待されます。

以上のような観点と第3次計画における成果と課題をふまえ、次の4つの基本方針を定め、より一層の子どもの読書活動の推進に取り組みます。

### 2 基本方針

#### (1) 子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自主的・自発的に読書を楽しむようになるためには、子どもが読書に親しむ機会の充実と、子どもの目的や意欲に応じ、読みたい本や知りたい情報を提供するための読書環境を充実させることが大切です。

このため、家庭、地域、学校それぞれが子どもの発達段階に応じて、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、自主的な読書活動を行えるよう、読書環境の整備を進めていきます。

社会のデジタル化や学校における GIGA スクール構想の進展等を踏まえ、デジタルリテラシーの向上を図りつつ、図書館の DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めていきます。

#### (2) 家庭、地域、学校等を通じた社会全体における取り組みの推進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校が、子どもが読書に親しむ機会の充実に向け、それぞれが担うべき役割を果たすことはもとより、相互に緊密な連携・協力を図りつつ取り組みを推進していくことが求められます。

このことから、家庭、地域、学校の連携協力をさらに深め、子どもの自主的な読書活動を支援する取り組みを推進します。

#### (3) 子どもの読書活動の意義の普及

子どもは、読書をする大人の姿を見たり、大人から昔ばなしなどの話を聞いたりすることで読書意欲が高まると期待します。

子どもが自主的な読書習慣を身に付けていくために、保護者や教職員等身近な大人が読書活動に理解と関心を持ち、社会全体で読書活動を推進することが必要です。

そのため、子どもの読書活動の意義や重要性について、広く普及啓発を図り、市民の理解と関心を深め、社会全体で読書活動を推進する機運の醸成に努めます。

#### (4) 発達段階に応じた読書活動支援

生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、幼児期からの発達段階に応じた読書活動が行われることが重要です。このため、読書に関する発達段階ごとの特徴を踏まえつつ、切れ目のない取り組みを行っていきます。

##### 【発達段階ごとの特徴】

###### ア 乳幼児期

乳幼児期の子どもにとって親の言葉による語りかけは、温もりあるコミュニケーションとなり、情緒を安定させ、子どもの健やかな成長にかけがえのないものです。また、保護者だけではなく、周りの大人からの読み聞かせにより、子どもは豊かな言葉を獲得し、想像力を養うことができます。

###### イ 小学生期

小学生では、字を読めるようになり、自分で本を読むことができる時期です。主体的に読書を行う習慣を身に付けていくように、その楽しさを体験できる機会を設け、読書に対する興味・関心を一層高めることが重要です。また、自らが興味ある分野を見つけ、そのことについて考え、疑問や課題、答えを模索し、過程及び結論を表現することも必要になります。

###### ウ 中学生期・高校生期

この時期の読書は人格を形成していく上で重要な働きをするものであり、自分自身を見つめる手段としても意義があります。しかし一方で、勉強や部活動等の時間が増え、スマートフォンやインターネットなどの情報メディアも身近にあるため、読書離れがさらに進み、「読む子」と「読まない子」に分かれる時期でもあります。

### 3 目標水準

この計画の目標達成に向けて、進捗状況を把握し達成度を計るために、数値による具体的な目標水準を以下に示すものとします。

項目		単位	第3次実績 (令和4年度)	第4次目標 (令和10年度)	備考
1ヵ月の 平均読書 冊数	小学5年生	冊	19.1	20.9	
	中学2年生		8.5	8.5	
	高校2年生		2.3	3.0	
市民1人当たりの 図書等貸出冊数(年間)		冊	4.5	5.3	図書館・公民館図書室 等態調査より
ボランティア団体数		団体	14	14	

(「岩手県子どもの読書状況調査」集計結果をもとに奥州市で作成)

## 第4章 子どもの読書活動推進のための取り組み

### 1 家庭における読書活動の推進

- (1) 毎月4日の「奥州市家庭読書の日（ねえ読んで）」や「家読（うちどく）」について、SNSを活用しながら普及啓発に努め、家族揃って読書をする環境づくりを推進します。
- (2) 保護者自身の読書習慣形成を図る取組を推進します。
- (3) 4～5か月児とその保護者を対象としたブックスタート事業を行い、読書ボランティアによる読み聞かせと、おすすめブックリスト・ブックスタートのしおりを配布することで、乳幼児期における本との出会いを働きかけます。
- (4) 「親子ライブラリー えほんの森」では、大型絵本やしかけ絵本の整備を行い、親子で本を楽しめる環境づくりに取り組みます。
- (5) 幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、中学校で家庭教育講演会支援事業を行い、保護者に対する読書活動や情報メディアの使い方等の啓発に努めます。

### 2 地域における読書活動の推進

- (1) 地域のボランティアが、学校や図書館、「親子ライブラリー えほんの森」などで読み聞かせ会等を行い、子どもが本に親しむ様々な機会を提供します。
- (2) ボランティア等研修会の開催を継続し、ボランティア団体の読み聞かせの技術の向上や、読書に関する知識を深めます。
- (3) 胆江地域のボランティア団体が、相互に情報交換ができるような交流会を実施します。
- (4) ボランティアの活動に必要な資料や情報の提供を積極的に行います。
- (5) 中学校・高校と連携をとり、生徒に読書の楽しさを伝える機会を作り、読書の関心を高めるとともに、次世代ボランティアの育成に努めます。
- (6) 学校、家庭、地域が連携し、地域の子どもたちを育む活動である教育振興運動において、子どもから大人まで読書に親しむ取り組みを行います。
- (7) 放課後子ども教室、放課後児童クラブの指導員が読み聞かせの技術を習得、向上させるために、研修会の機会を設けます。また、市立図書館団体貸付のより活発な利用を促進します。

### 3 幼稚園・保育所・認定こども園における読書活動の推進

- (1) 日常生活の中で本の楽しさを伝え、本とのふれあいの時間を子どもたちが楽しめるように、読み聞かせを推進するとともに、保護者に対して読み聞かせの意義を普及することに努めます。
- (2) 奥州市家庭読書の日（ねえ読んで）」に合わせた企画を実施し、親子と一緒に絵本を楽しむ時間を持てるようにするとともに、本の貸出を促進します。
- (3) 図書館と連携を密にし、団体貸出を積極的に活用するなどして豊富で多様な図書を用意するよう努めます。
- (4) 絵本に関する知識を深める研修会や講習会など、幼稚園教諭や保育士・保育教諭の研修機会の充実を図ります。

#### 4 学校における読書活動の推進

- (1) 小・中学校の朝読書については、知識を得ることだけでなく、気持ちを落ち着かせるうえでも効力のあるものであり、継続して実施していきます。
- (2) 教職員が読んでいる本の紹介や推薦をしたり、自らが本を読む姿勢を子どもに示したりしていきます。
- (3) 読書週間、読書月間など定期的に読書をする時間を確保することで、子どもたちの読書を習慣付けます。
- (4) 地域ボランティア等との連携による読み聞かせやブックトークなどの機会を増やし、子どもが自ら本と向き合うよう、動機付けに努めます。
- (5) 児童・生徒による図書委員会活動を積極的に指導します。全校へ向けての読書啓発のPR活動や、ブックリストを活用したおすすめ本の紹介など、児童・生徒に配布されているタブレットも活用しながら情報発信に努めます。
- (6) 本を読まない生徒に読書の楽しさを知ってもらうため、友達同士で本を紹介し合うなど、読書への関心を高めていくよう努めます。
- (7) 学校図書館が子どもたちにとって親しみやすく有効に活用できるよう、利用しやすい配架や掲示を行う等、環境整備に努めていきます。
- (8) 司書教諭や学校司書は、子どもや児童書に関する知識を得るため、様々な研修に参加します。また、連絡会を持ち、協力、連携体制を強化していきます。
- (9) 学校図書館便りの作成等、学校図書館を利用して読書を広める活動を行っていきます。
- (10) 市内全校が「学校図書館図書標準」の充足率を達成するよう努めます。
- (11) 市立図書館との連携を深め、相互に協力して限られた資料を有効活用していきます。
- (12) 不読率が高い高校生の低減を目指し、高校の図書委員による読書活動を支援します。また、高校生と親和性の高いSNSを活用した周知に努めます。

#### 5 市立図書館における読書活動の推進

- (1) ボランティア団体等の協力を得て、定期的の実施しているおはなし会や読み聞かせ会の充実を図ります。
- (2) 図書館報、広報等を活用し、優良図書の情報提供を積極的に進めます。
- (3) 図書館から離れた地域に居住する子どもたちの読書活動を推進するため、移動図書館によるサービスの充実に努めます。
- (4) 幼稚園、保育所、認定こども園、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、学校、地区センター等の団体貸出の充実に努めます。
- (5) 来館するさまざまな子どもに対応できるように、大活字本、点字図書、外国語図書等の整備・充実を図るとともに、図書の紹介等の啓発にも努めます。
- (6) 子どもや保護者にとって分かりやすく、利用しやすい配架や案内板の工夫に努めます。
- (7) 子どもの発達段階に合わせた各種コーナーの充実に努めます。
- (8) 県立図書館と県内の他の公立図書館との連携を図り、本の相互貸借により多様な資料の提供に努めていきます。
- (9) 学校の授業に必要な参考図書の団体貸出をするなど、学校図書館への支援を行います。



- (10) 読書活動をサポートするボランティアの育成を図ります。
- (11) 読書週間やイベント等に合わせた「テーマ展・企画展」の実施、郷土資料の充実を図りながら新しい知識の習得・読書意欲の喚起の場としての提供に努めます。
- (12) 子どもが探している本についての相談や、レファレンスサービスの充実に努めます。
- (13) 国際交流団体等と連携し、外国語による利用案内やパンフレットの作成、外国語資料の整備・提供に努めます。
- (14) 外国語資料に対する要望に応じるため、外国語で書かれた絵本や児童図書の充実を図るとともに、県立図書館、県内の他の公立図書館との相互協力を進めます。
- (15) 障がいのある子どもが利用しやすい図書館の環境整備を図ります。
- (16) 児童・生徒の利用状況やニーズを把握しながら、電子書籍の導入などデジタル社会に対応した環境の整備を検討していきます。

## 第5章 資料編

### 1 胆江ゆめネットワーク所属団体

	団体名	代表者氏名	区
1	白ゆり会	伊藤 愛子	水沢
2	真城小学校読み聞かせの会	花泉 雪子	水沢
3	上映ボランティア集団「フィルマズ・アテルイ」	菅原 桂子	水沢
4	プレアデスの会	畠田 美奈子	水沢
5	読み聞かせボランティア すみれの会	千葉 正岐	水沢
6	音読「あいうえお」の会	武田 洋子	水沢
7	けやきの会	及川 典子	江刺
8	わらしゃんど	新田 明美	江刺
9	前沢おはなし広場	佐藤 妙子	前沢
10	いちごみるく	阿部 昭緒	胆沢
11	エンジェル ぼいす	榊 文仁	金ヶ崎町
12	ぶつくわあむ	佐藤 浩美	金ヶ崎町
13	朗読 てのひらの会	小野寺 寿子	金ヶ崎町

### 2 子どもの読書活動推進計画見直しに係るアンケート調査結果

●調査期間：令和5年9月4日（月）～9月28日（木）まで

●調査対象：①奥州市内の小学校5年生（対象：5校 292名 / 回答：266名）

奥州市内の中学校2年生（対象：3校 343名 / 回答：308名）

奥州市内に通う高校2年生（対象：3校 309名 / 回答：296名）

②奥州市内の幼稚園、保育所、認定こども園に通う年長幼児の保護者

（対象：14施設 275名 / 回答：257名）

③奥州市内の幼稚園・保育所・認定子ども園施設

（対象：43施設 / 回答：36施設）